

所蔵刀剣類展

古来、日本刀は、武士の世における戦いの道具として用いられるだけでなく、その姿形の美しさから優れた美術工芸品であるとともに、江戸時代の大名家の家柄を物語る家宝としても大切に扱われるなど、わが国の文化財、歴史資料としても貴重な文化遺産です。

刀剣の基礎は、有名な行田・稻荷山古墳出土の国宝・金錯銘鉄剣に代表されるように古墳時代に確立し、刀剣は武器でありまた権力者の象徴でもありました。この頃から平安時代中期ごろまで刀剣は直刀という形式でしたが、平安時代後期になって武士が登場してくると、刀剣の性能、機能向上のために反りが生まれ、刃を下にして佩く太刀が、そして室町時代中期以降は刃を上にして差す打刀が登場します。また各地に刀工が生まれ、いわゆる「五箇伝」【大和、山城、備前、相州、美濃】を中心に多くの太刀が生産されるようになりまし。そして名工たちが制作した名刀は、時代の権力者たちが所持して現在まで伝えられ、和の美を象徴する「鉄の芸術」として、また世界に誇る伝統工芸品として受け継がれています。

今回展は、当館で所蔵する刀剣類を展覧いたします。当館では平成一〇年度に文化庁から譲与されたいわゆる「赤羽刀」一〇本を初め、熊谷ゆかりの刀剣類を所蔵しています。これらの刀剣類を通じて、世界に誇る日本の伝統文化への理解を深めていただければ幸いです。

最後に今回展の開催にあたりまして、格別なご指導・ご協力を賜りました関係各位に対し厚くお礼を申し上げ、開催のごあいさつといたします。

会期／平成三〇年九月一日（火）

～ 一二月一六日（日）

〔休館日／毎週月曜日（祝日は除く）、9/18、9/25、10/5、10/9、11/2、12/7〕

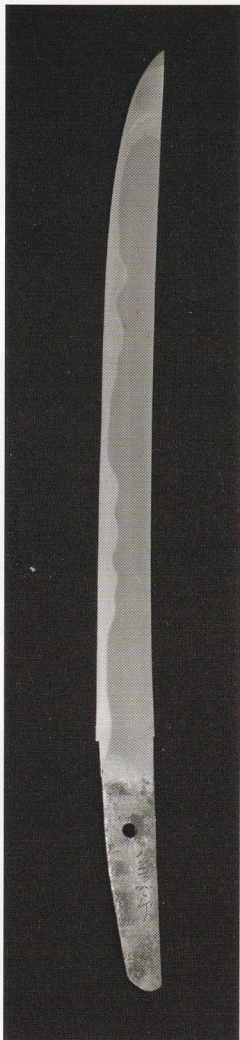
会場／熊谷図書館三階 郷土資料展示室

時間／午前九時～午後五時 入場無料

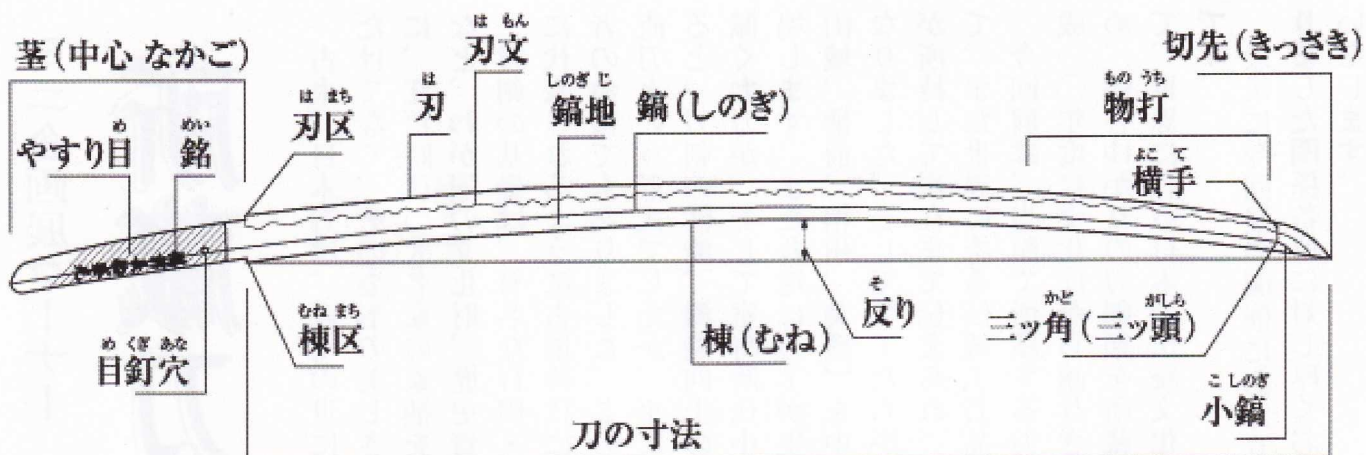
主催／熊谷市立熊谷図書館

住所／熊谷市桜木町2-33-2

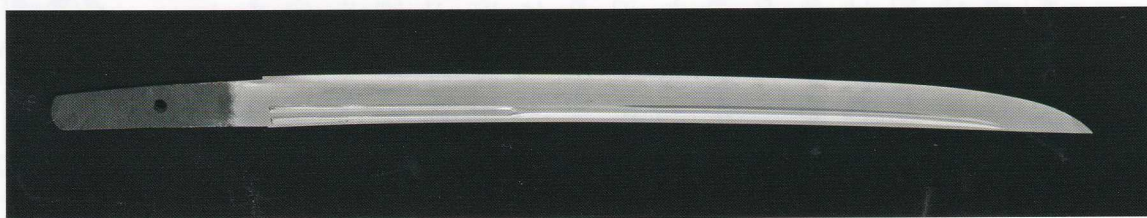
電話／048-525-9463



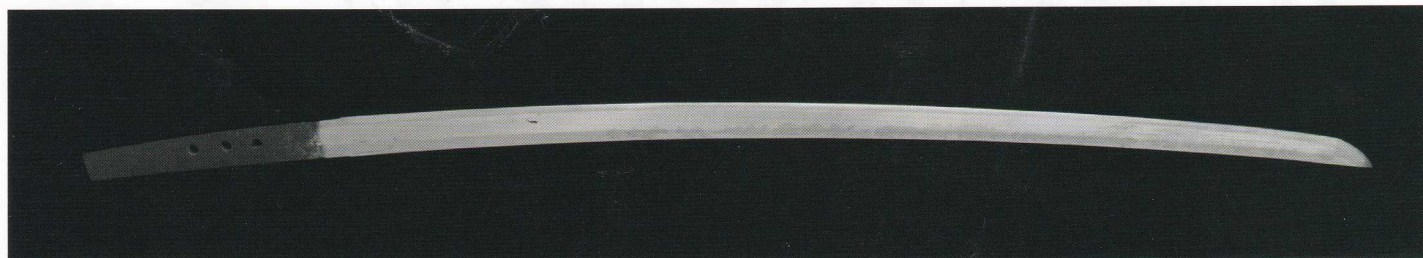
兼貞 室町中期



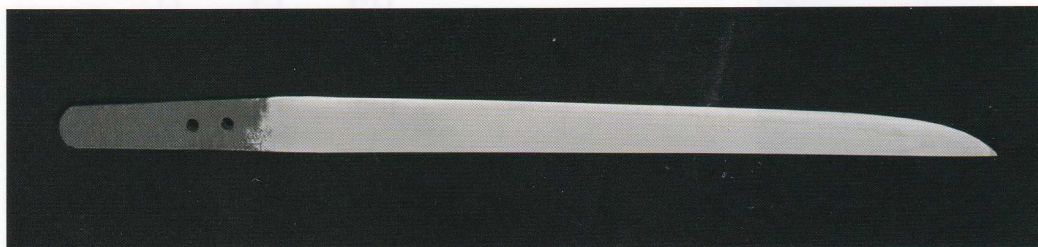
日本刀のつくりと部分の名称



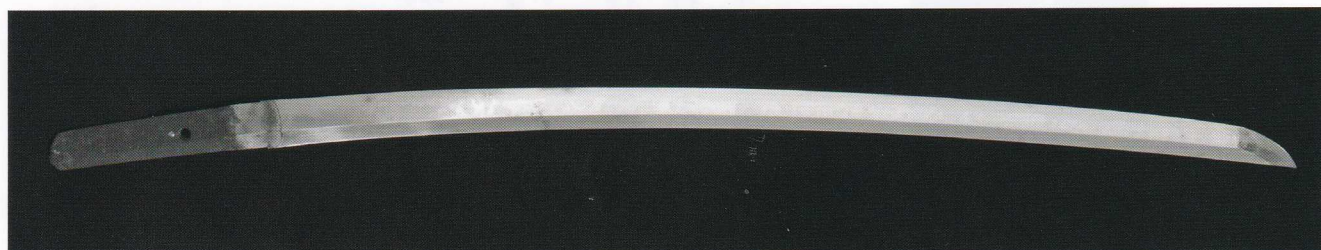
家助 室町初期



無銘 室町中期



清光 室町末期



備前国住家次 天正二年

※このチラシは、2,000枚制作し、制作費用は1枚あたり12.8円です。